

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム
評価

2021 年度 報告書

大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価 2021年度 報告書

目次

巻頭言

第1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定・・・・・・・・・・1

1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）
2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け
3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括・・・・・・・・・・5

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果
2. 本学部の強みおよび課題

第3章 次年度に向けた課題・・・・・・・・・・9

1. 昨年度より引き続き取り組む課題
2. 今年度の新たな課題

資料

1. 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領・・・・・・・・・・10
2. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿・・・・・・・・・・12
3. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・13
根拠資料一覧 大項目 1. ディプロマポリシー
大項目 2. 環境
大項目 3. 過程
大項目 4. 成果
大項目 5. アドミッションポリシー
大項目 6. 改善
4. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価・27
委員評価一覧 大項目 1. ディプロマポリシー
大項目 2. 環境
大項目 3. 過程
大項目 4. 成果
大項目 5. アドミッションポリシー
大項目 6. 改善

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価 2021 年度 報告書
巻頭言

カリキュラム評価委員会は、3年目を迎えました。メンバーは、内部委員として看護学部教員3名、学務部2名、外部委員として医学部教員1名、他大学看護系教員1名、自治体に所属する専門家1名、学生委員として学年が異なる2名の学生に委員を委嘱しています。看護学部教員2名、学務部1名、学生委員2名の交代がありました。複数年度で評価することによって、継続した評価ができるため、評価基準は昨年度同様としました。

2020年1月から世界に感染拡大した新型コロナウイルス(COVID-19)は、パンデミックとなり、新型コロナウイルスの感染拡大がもたらす影響は、個人個人の感染のリスクの問題から、医療問題や経済問題に発展しました。感染予防のため、3密(換気の悪い密室空間、多数が集まる密集場所、間近で話をする密接場面)を避けるための生活行動が求められました。日本でも緊急事態宣言が出されたことにより大学の講義は、オンライン講義となりました。そのような非常事態の混乱の中で、新入生を迎え、IT化の環境整備や時間割の変更、在校生の講義や演習、実習等が最大限できる環境となるように教職員と学生が協力しあって過ごした1年であったように思います。この状況を踏まえ、外部委員・学生委員の意見を受けて、今年度はCOVID-19の影響による実習の工夫(学外・学内実習も含む)や学習環境の調整について評価項目や根拠資料を追加しました。COVID-19の影響による学習環境の調整については、大項目2「環境」の中項目②「ICTの設備が整っている」の小項目として「遠隔授業ができる環境が整っている」を追加しました。COVID-19の影響による実習の工夫(学外・学内実習を含む)については、大項目3「過程」の中項目①「カリキュラムは計画通り実施されている」に追加しました。また、大項目にアドミッションポリシーの項目を取り入れ、看護学部が求める人材を明確に示しました。

カリキュラム評価委員会は、COVID-19の影響に伴い、ZOOMにて開催となりました。評価委員会の前に、外部委員と学生委員から評価項目別にコメントをいただいております。内部委員がそれぞれのコメントに対して回答していく形で進めました。それぞれの委員が直接学生委員に意見を聴取するなど活発な意見交換ができました。評価項目等多角的に意見がでたと考えています。

2021年度大阪医科大学は、大阪薬科大学と統合し大阪医科薬科大学になりました。看護学部、医学部、薬学部と統合された医療系総合大学として、特徴あるカリキュラムの企画、運営、評価がされていくと思われまます。来年度は、外部委員の中に薬学部の先生にも入っていただき、さらに研鑽をしていきたいと考えております。

2022年3月

大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会

第 1 章

第1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定

1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

本学の理念は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人の育成である（学則第1条）。また、本学の目的は、前述した理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた、1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材を育成することである（学則第2条）。

本学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学修成果を測定・評価している。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行っている。本学では、アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント（大学がその教育目的を達成するために行う管理運営）」を確立させ、不断の教育改善に取り組んでいるところである。

以下に、機関レベル（大学レベル）および看護学部看護学科のアセスメントポリシーを示す。

表1. 大阪医科薬科大学 機関レベル（大学レベル）のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
査定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーを満たす人材か ・アドミッションポリシーの妥当性 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシーに則った学修が進められているか ・カリキュラムポリシーの妥当性 ・アドミッションポリシーの妥当性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー（以下、DP）を満たす人材になったか ・DPの妥当性 ・カリキュラムポリシーの妥当性 ・アドミッションポリシーの妥当性
機関レベル （大学レベル）	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学時調査 ・入試制度評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・進級率, 休学率, 退学率 ・学勢調査 ・正課外活動状況（短期留学, クラブ, ボランティア等） ・ポートフォリオ 	<ul style="list-style-type: none"> [卒業時] 卒業時アンケート（学勢調査） 国家試験合格率（医・保・助・看） 研修先一覧（マッチング結果：医学部） 就職率／進学率（看護学部） [卒業後] 卒業生アンケート 卒業生就職先／勤務先へのアンケート

表 2. 大阪医科薬科大学 看護学部看護学科のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (学部レベル)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学試験 ・ 入学時調査 ・ 入試制度評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 修得単位数 ・ GPA ・ 学勢調査 (カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査) ・ 教員によるカリキュラム評価 ・ 進級率, 休学率, 退学率 ・ 保健師, 助産師コース希望者数 ・ 外部試験結果 (国家試験模試等) ・ 正課外活動ポートフォリオ ・ 入試制度別成績, 態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業要件: 修得単位数, 卒業演習評価 ・ 資格取得: 国家試験合格率 ・ GPA ・ 休学率, 退学率 ・ 就職率, 進学率 ・ 学勢調査 (カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査) ・ 卒業時到達目標の自己評価 ・ 正課外活動ポートフォリオ ・ 入試制度別成績, 態度
科目レベル		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目評価 (講義・演習・実習) ・ 実習ポートフォリオ ・ 授業評価 (学生) ・ 授業改善報告書 (教員) ・ ピアレビュー報告書 (授業見学) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目成績 (講義・演習・実習)

https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/policy/assessment_policy.html

2021 年 4 月 1 日現在

2. 看護学部カリキュラム評価委員会の目的と位置付け

本委員会は、定期的な自己点検・評価の取組を踏まえた本学における自主的・自律的な質保証への取組 (内部質保証) のひとつとして 2019 年 4 月 1 日に設置された。

本委員会の目的は、本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員に複数の学外有識者も含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を目指すものである。

本委員会は、「課程レベル (学部レベル) の PDCA サイクルをモニタリングする」という位置付けにある。PDCA サイクルとは、目標設定とその実現のためのプロセスを設計する Plan (企画・立案)、計画の実施とその効果を測定する Do (実施)、結果を分析し評価する Check (評価)、プロセスの継続改善に必要な措置を行う Action (検証・改善) の 4 段階を繰り返すことによって、継続的な改善を目指すマネジメントサイクルのひとつである。4 段階のステップとスパイラルを

積み重ねるプロセスをモニタリングすることによって、より質の高い教育活動が可能となる。

PDCA サイクルのモニタリングの継続により、①教育目標の達成状況を把握することができる、②達成されていない教育目標についてその原因を探ることができる、③原因は把握から改善の道筋を明確にすることができる、④改善がどこまで進んだかを追跡することができる。

本委員会の運営要領は資料 1、2021 年度委員名簿は資料 2 に示す。

3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

1) 評価項目と評価基準

本学看護学部看護学科のアセスメントポリシーおよび本委員会の目的・位置付けに基づき、評価項目が設定された。評価項目は、大・中・小項目で構成され、大項目は①本学看護学部ディプロマポリシー（学位授与の方針）、②教育設備に関する環境、③過程、④成果、⑤アドミッションポリシー、⑥改善である。中項目は、大項目について 2～5 の項目、小項目は中項目をどのような点で評価するかを示す項目である。評価するための根拠となる資料をそれぞれ明示した。なお、評価項目で用いる「カリキュラム」とは、各科目および科目全体を指す。

評価基準は、A：十分に実施されている（解釈：PDCA がなされている）、B：概ね実施されている（解釈：一部実施にむけた検討がなされている）、C：大幅な見直し、改善が必要（解釈：PDCA がなされていない）である。

評価項目および評価基準は、本学看護学部教授会ならびに本委員会で協議し、決定された。表 3 に示す。

2) 評価の方法

評価は、前年度に実施された本学看護学部看護学科の教育と教育をめぐる環境に関して、根拠資料（資料 3-1～3-6）ごとに示された「P」・「D」・「C」・「A」の内容から、評価基準に沿って評価し、コメントがある場合には記載がなされた。さらに、中項目ごとに総合評価が行われた。

学外委員（第 2～4 号委員）および学生委員（第 6 号委員）は各々、評価し、学内委員（第 1 号および第 5 号委員）は意見を集約し、評価を行った。

各委員による評価は、資料 4-1～4-6 のとおりである。この資料に基づき、本委員会で協議し、評価結果をまとめた。

なお、2021 年度の委員会は 2 回開催し（第 1 回委員会：2021 年 9 月 29 日、第 2 回委員会：2022 年 2 月 2 日）、いずれも委員の過半数の出席があり定足数を満たしている。

3) 評価結果のフィードバック

本委員会の評価結果は、運営要領の第 5 条 4 に基づき、委員長が本学看護学部長に報告した。また、本学看護学部教授会にて委員長は報告を行い、本学看護学部教職員と評価結果の共有がなされた。

本委員会の全ての委員には報告書が送付された。

さらに、評価結果を広く共有すべく、報告書は本学ホームページに掲載し、その旨は本学看護学部学生に周知した。

表 3. 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム 課程レベル (学部レベル) の評価項目

課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価			2021年度カリキュラム評価委員会 学内WG		
大項目	中項目	小項目	資料	評価	コメント
1. ディプロマポリシー	①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとにDP①～⑥との対応が示されている	<ul style="list-style-type: none"> 卒業演習評価 GPA (累積GPA・単年GPA) 休学率、退学率 卒業時到達目標の自己評価 資格取得：国試合格率 進学率・就職率 学勢調査 正課外活動がポートフォリオ 		
	②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探索し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる	DP①～⑥の能力を有しているか学生が自己評価している			
	③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる	DP①～⑥の能力を有しているか外部指標を用いて評価している			
	④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる				
	⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる				
2. 環境	①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある	<ul style="list-style-type: none"> 学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図) 常勤教員数 文部科学省調査「指定 (認定) 学校概況」等報告書 設備 (ア) グループ演習室、イ) セルフトレーニングルーム、ウ) PC台数、エ) 文献検索、統計処理が可能なPC、オ) 無料インターネット (Wi-Fi) 接続、カ) 図書館、キ) 自学自習室、ク) 実習室、ケ) キャリアサポートルーム 		
	②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある			
	③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学生数に対して、常勤教員数が確保されている			
	④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書館がある			
		学生が自己学習できる部屋がある			
3. 過程	①カリキュラム*は計画通り実施されている (*各科目および科目全体を指す)	GPA評価により学生の進捗状況を把握している	<ul style="list-style-type: none"> 各科目評価 修得単位数 実習ポートフォリオ 授業評価 進級率、休学率、退学率 保健師、助産師コース希望者数 授業改善報告書 ピアレビュー報告書 授業評価 教員・学生によるカリキュラム評価 カリキュラムマップ カリキュラムツリー 看護学実習におけるCOVID-19対策 GPA (全体推移・単年GPA・個別GPA) 実習連絡協議会の報告資料 		
	②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配置は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている			
	③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている			
		FDを定期的実施している			
		授業評価に対する改善報告書を学生に返答している			
4. 成果	①カリキュラムの目標を達成している	看護技術経験表評価調査を実施・評価している	<ul style="list-style-type: none"> 各科目評価 修得単位数 卒業先評価 卒業時到達目標の自己評価 ジェネリックスキルテスト 卒業生就職先アンケート実施 看護技術経験表評価調査 資格取得：国試合格率 		
	②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職先アンケートを実施・評価している			
	③雇用者は卒業生の能力に満足している	ジェネリックスキルテストを実施・評価している			
5. アドミッションポリシー	①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている	AP①～⑥の基盤となる基礎学力と応用力が示されている	<ul style="list-style-type: none"> 求める人材像、大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等 入学者選抜基本方針 入学試験の志願者数と志願倍率 入学時調査 (新入生の出身校評定) 入試制度別の成績調査 ジェネリックスキルテスト 		
	②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることを人を受け入れている	AP①～⑥にかかわる入学者選抜方法が示されている			
	③看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている	AP①～⑥の状況について外部指標を用いて評価している			
	④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている				
	⑤研究心を持ち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている				
	⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている				
6. 改善	①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を知っている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	<ul style="list-style-type: none"> 学科会議議事録 3センター活動報告 卒業生就職先アンケート調査 学生からの要望に対する対応 学生・教員懇談会、意見箱の運用 		
	②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を示す場がある			

評価 A…十分に実施されている、B…概ね実施されている、C…大幅な見直し、改善が必要

第 2 章

第2章 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価の結果および総括

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果

根拠資料一覧は資料 3-1～3-6 に示した。各委員より集約した評価およびコメントの一覧表は資料 4-1～4-6 のとおりである。以下には大項目ごとに結果の概要を示す。

1) 大項目 1. ディプロマポリシー

(1) PDCA サイクル

- ・「GPA（累積 GPA・単年 GPA）」、「休学率，退学率」，「卒業時到達目標の自己評価」，「資格取得：国試合格率」については，委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については，半数以上の委員が A と評価していた。
- ・「正課外活動ポートフォリオ」については C の評価があり，回答率の低さが今後の検討課題であることが指摘された。

(2) 総合評価

- ・中項目「①生命の尊厳を守り，人権を尊重し，多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる」，「③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ，個別の健康課題に対し，ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる」，「⑤自らのキャリア形成を見据えて，向上心を持って自己研鑽し続けることができる」については，委員全員が A と評価していた。
- ・中項目「④地域社会における健康課題を把握し，多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して，多様な課題の解決に取り組むことができる」については，半数以上の委員が A と評価していた。
- ・中項目「②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し，新しい知識や技術の創造に取り組むことができる」については，半数以上の委員が B と評価していた。

2) 大項目 2. 環境

(1) PDCA サイクル

- ・「文部科学省調査「指定（認定）学校概況」等報告書」については，委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については，半数以上の委員が A と評価していた。

(2) 総合評価

- ・中項目「①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている」については，委員全員が A と評価していた。
- ・その他の中項目については，半数以上の委員が A と評価していた。

3) 大項目 3. 過程

(1) PDCA サイクル

- ・「実習ポートフォリオ」，「進級率，休学率，退学率」，「保健師，助産師コース希望者数」，「授業改善報告書」，「授業評価」，「看護学実習における COVID-19 対策」，「GPA（全体推移・単年 GPA・個別 GPA）」，「FD 実施状況」については，委員全員が A と評価していた。

- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。
- ・「修得単位数」については、単位数の上限・卒業要件について記載されておらず C の評価があった。

(2) 総合評価

- ・中項目「②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の中項目については、半数以上の委員が A と評価していた。

4) 大項目 4. 成果

(1) PDCA サイクル

- ・「各科目評価」、「修得単位数」、「卒業先評価」、「卒業時到達目標の自己評価」、「資格取得：国試合格率」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。

(2) 総合評価

- ・すべての中項目について、委員全員が A と評価していた。

5) 大項目 5. アドミッションポリシー

(1) PDCA サイクル

- ・「求める人材像、大学入学までに身に付けておくべき教科・科目、入学者選抜基本方針、入学試験の志願者数と志願倍率」、「入試制度別の成績調査」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。

(2) 総合評価

- ・中項目「⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている」については、半数以上の委員が A と評価していた。
- ・その他の中項目については、委員全員が A と評価していた。

6) 大項目 6. 改善

(1) PDCA サイクル

- ・「卒業生就職先アンケート調査」については、委員全員が A と評価していた。
- ・その他の項目については、半数以上の委員が A と評価していた。

(2) 総合評価

- ・すべての中項目について、半数以上の委員が A と評価していた。

2. 本学部の強みおよび課題

1) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の強み

外部委員, 学生委員, 内部委員ともに A と評価した中項目および評価は下記の通りであった。

・大項目 1. ディプロマポリシー

中項目①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重

した行動をとることができる

中項目③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる

中項目⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる

・大項目 2. 環境

中項目①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている

・大項目 3. 過程

中項目②科目の配列は DP を達成できる最善のものとなっている

・大項目 4. 成果

中項目①カリキュラムの目標を達成している

中項目②社会人基礎力を身につけている

中項目③雇用者は卒業生の能力に満足している

・大項目 5. アドミッションポリシー

中項目①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている

中項目②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることを受け入れている

中項目③看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人を受け入れている

中項目④他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人を受け入れている

中項目⑤研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人を受け入れている

以上より、カリキュラムの運営について PDCA が回っており、常に振り返り、改善にむけて動いていると評価できる。また、COVID-19 によるカリキュラム運営への影響があったが、対応することができていたと評価できる。

2) 本学部の PDCA サイクルから評価した結果の課題

外部委員、学生委員、内部委員の評価で乖離のあった項目と複数の委員が B と評価した項目および課題は下記の通りであった。

・大項目 1. DP

中項目②多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探求し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる

・大項目 2. 環境

中項目②ICT の設備が整っている

・大項目 3. 過程

中項目①カリキュラムは計画通り実施されている

・大項目 6. 改善

中項目②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次の Plan がたてられている

以上より、多面的かつグローバルな視点に対しては、国際交流の実施やさらなる土壌づくりの推進によって、今後の改善を期待する。また、今後授業におけるオンライン化の推進に伴い、学内 ICT 環境を引き続き整備することで、学生の学習環境を充実させることが求められる。そ

して、評価を行い教職員は目標達成のための課題や問題点を共有することができている。しかし、課題や問題点を解決するための具体策の検討が不十分であり、今後の課題である。

第 3 章

第3章 次年度に向けた課題

今年度は、COVID-19の影響による実習の工夫や遠隔授業への取り組みに関する改善点を踏まえ運営を行った。その中で、昨年から引き続き取り組むべき課題および、次年度に向けてはコロナ禍における運営について課題が示されたため以下に記す。

1. 昨年度より引き続き取り組む課題

COVID-19が与える影響について

COVID-19を受けた各評価において、COVID-19の影響を受けた段階ごとにその都度対応を実施していることから、COVID-19の影響を加味した評価を実施する事が望ましい。今後、教育手法（オンデマンド化）が導入される等、教育環境の変化を迎えることも想定されるため、その都度記録に記すことの必要性が確認された。

2. 今年度の新たな課題

1) 社会人としての資質・国際的視点について

社会人としての資質・国際的視点に関して高めることが必要であると、課題として認識はされているが、どのように改善するか具体的な対策が必要である。今年度3年目を迎えたジェネリックスキルテストの結果を活用するなど具体的な対策として今後の検討課題としたい。

2) 年報とカリキュラム評価について

本学が作成する年報には、各センターや委員会組織がPDCAを報告している。カリキュラム評価と年報を協働する事で、より具体的な評価方法となる事から年報への記載する事を継続的に実施することが課題である。

3) 学生への発信力について

学生委員より、大学側の教育環境改善への取り組みや工夫を学生に発信する事が、学生のアンケート回収率の増加につながるのではないかと、との意見があった。また大学側も「学生とともに考える」ことを意識し、学生が積極的に意見を言える場を作っていく必要がある。「学生（あなた）の意見が大学を変える。」という大学側の思いや発信力、発信方法について今後の検討課題としたい。

資料

資料1. 運営要領

大阪医科薬科大学 看護学部カリキュラム評価委員会運営要領

(平成31年4月1日施行)

(目的)

第1条 この運営要領は、大阪医科薬科大学学部長規則第2条に基づき、大阪医科薬科大学看護学部、大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その必要な事項を定める。

(設置)

第2条 大阪医科薬科大学の看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするために委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を図るものとする。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 看護学部教員3名
- (2) 医学部教員1名
- (3) 他大学看護系教員1名
- (4) 自治体、商工会議所、企業等からの委員1名
- (5) 看護学事務課1名
- (6) 看護学部学生（第2学年学生代表1名、第4学年学生代表1名）

2 委員は、学部長の推薦に基づき、看護学部教授会の議を得て学部長が委嘱する。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 看護学部の教育カリキュラムの評価に関する事。
- (2) その他、カリキュラムに関する事。
- (3) その他、学部長の諮問する事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、看護学部教員からの互選により選出する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 4 委員長は、委員会において審議した結果を看護学部長に報告するものとする。

(任期)

第6条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、看護学部学生委員の任期は1年とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第7条 委員会は、原則として年に2回以上開催する。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。
- 3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席させることができる。

(改 廃)

第8条 この運営要領の改廃は、委員会で発議し、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が行う。

附 則

この運営要領は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

資料 2. 2021 年度 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会名簿

任期期間：2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

役 職	所属	職位	氏名	第 3 条 組織の各号
委員長	看護学 公衆衛生看護学領域	教授	吉田 久美子	第 1 号：看護学部教員
委員	看護学 精神看護学領域	准教授	瓜崎 貴雄	第 1 号：看護学部教員
委員	看護学 母性看護学・助産学領域	講師	近澤 幸	第 1 号：看護学部教員
委員	医学教育センター	専門教授	瀧谷 公隆	第 2 号：医学部教員
委員	大阪府立大学 大学院看護学研究科	教授	細田 泰子	第 3 号：他大学看護系教員
委員	高槻市こども未来部 こども保健課	主査	澤田 恵津子	第 4 号：自治体，商工会議 所，企業等からの委員
委員	学務部 看護学事務課	課長	川端 由夏	第 5 号：看護学事務課
委員	学務部 看護学事務課	事務員	北川 祐美	第 5 号：看護学事務課
委員	看護学部	第 2 学年 学生	中野 佑香	第 6 号：看護学生第 2 学年 代表
委員	看護学部	第 4 学年 学生	祝原 美玖	第 6 号：看護学生第 4 学年 代表

※任期は 1 年 再任を妨げない

※学生の任期は 1 年 毎年 4 月以降に総代の見直しがある

資料3-1-1. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のキャリアラム評価

大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	小項目	総合評価
①生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる	科目ごとでDP①～⑤との対応が示されている	
②多目的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探索し、新しい知識や技術の習得に取り組むことができる	DP①～⑤の能力を有しているか学生が自己評価している	
③看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる	DP①～⑤の能力を有しているか外部指標を用いて評価している	
④地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる		
⑤自らのキャリア形成を見据えて、向上心を持って自己研鑽し続けることができる		

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大體な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	D	頁	C	頁	A	備考	評価	キャリアラム評価コメント	
卒業演習評価	○	2020年度年報	18	2. 教育センター担当科目の運営	2. 教育センター担当科目の運営と実施 ①卒業演習に関すること ②卒業演習の発表会の運営・実施 ③新型コロナウイルス感染症対応状況に応じた、zoom会議、領域内対面実施から全面的zoom運営に変更し実施した。事前調査で各々の自宅通信用環境の確保、自宅からのzoom参加ができないため来学し会場にて発表を行った。講義室4・5の音声環境の不備が改善され、前日のみ一部急遽講義室へ変更するといった対応をおこなった。 ④卒業演習要項の作成と領域決定卒業演習要項を作成し、卒業演習オリエンテーション時に配布した。新型コロナウイルス感染症対応から学内での領域決定が困難となることを想定し、オリエンテーションをzoomと講義(対面)で行い、事前にターニングポイント医師確認を行った上で、領域決定のアンケートレーションを行った。	19, 20	2. 教育センター担当科目の運営と実施 ①卒業演習に関すること ②卒業演習の発表会の運営・実施 ③新型コロナウイルス感染症対応状況に応じた、zoom会議、領域内対面実施から全面的zoom運営に変更し実施した。事前調査で各々の自宅通信用環境の確保、自宅からのzoom参加ができないため来学し会場にて発表を行った。講義室4・5の音声環境の不備が改善され、前日のみ一部急遽講義室へ変更するといった対応をおこなった。 ④卒業演習要項の作成と領域決定卒業演習要項を作成し、卒業演習オリエンテーション時に配布した。新型コロナウイルス感染症対応から学内での領域決定が困難となることを想定し、オリエンテーションをzoomと講義(対面)で行い、事前にターニングポイント医師確認を行った上で、領域決定のアンケートレーションを行った。	19, 20	2. 教育センター担当科目の運営と実施 ①卒業演習に関すること ②卒業演習の発表会の運営・実施 ③新型コロナウイルス感染症対応状況に応じた、zoom会議、領域内対面実施から全面的zoom運営に変更し実施した。事前調査で各々の自宅通信用環境の確保、自宅からのzoom参加ができないため来学し会場にて発表を行った。講義室4・5の音声環境の不備が改善され、前日のみ一部急遽講義室へ変更するといった対応をおこなった。 ④卒業演習要項の作成と領域決定卒業演習要項を作成し、卒業演習オリエンテーション時に配布した。新型コロナウイルス感染症対応から学内での領域決定が困難となることを想定し、オリエンテーションをzoomと講義(対面)で行い、事前にターニングポイント医師確認を行った上で、領域決定のアンケートレーションを行った。	24			
	○	2020年度年報	19	1. 教育課程全般の運営	1. 教育課程全般の運営 ①GPAの分析と平準化 2019年度及び2020年度前期の成績についてIR室に分析を依頼し、解析結果をアセスメントポリシーに沿ってPDCAシートにまとめ、教授会や教育戦略会議で共有した。科目間の評価の平準化をめざし、IR室と連携をして各学年のGPAや各科目の積み上げを行った。教授会で共有した。また、再試験の多い科目について科目責任者に振り返りを依頼し、授業改善につなげた。卒業判定と成績不良の成績、進級基準線、卒業判定は各学年の指導教員、卒業判定は各学年に基き、教授会、審議し適正に行った。また、望ましい（望まない）水準）未満の学生に対し、1対1の手帳）による学習指導を依頼、手帳も取り組みによって学生の改善がみられたか評価した。	19	1. 教育課程全般の運営 ①GPAの分析と平準化 2019年度及び2020年度前期の成績についてIR室に分析を依頼し、解析結果をアセスメントポリシーに沿ってPDCAシートにまとめ、教授会や教育戦略会議で共有した。科目間の評価の平準化をめざし、IR室と連携をして各学年のGPAや各科目の積み上げを行った。教授会で共有した。また、再試験の多い科目について科目責任者に振り返りを依頼し、授業改善につなげた。卒業判定と成績不良の成績、進級基準線、卒業判定は各学年の指導教員、卒業判定は各学年に基き、教授会、審議し適正に行った。また、望ましい（望まない）水準）未満の学生に対し、1対1の手帳）による学習指導を依頼、手帳も取り組みによって学生の改善がみられたか評価した。	23	1. 効果が上がっている事項 ① 教育課程全般の学年GPA値が2.7以下だが、今年度の2年度GPA値が2.7と他学年と同じレベルに維持できている。また、2年度のGPA2.0未満の学生が少なくなり、成績の平準化につながっている。	23			
	○	2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	6, 7	2. 1) 学年ごとの単年GPA分布 2. 2) 2019年度と2020年度のGPA比較	2020年度GPAの状況が基で、2020年度単年GPA分布が図で、2019年度と2020年度のGPA分布の比較が図で示されている。	6, 7	1. 2・3年生のGPA平均値が学年全体で見たときと低かったが、徐々に上昇してきており、他の学年と同様のGPA平均値に近づいている。2019年度に比べて1・3年生のGPA平均値はほぼ同等であるが、2・4年生のGPA平均値が上昇している。	6					
	○	①看護学部GPA実績について②2020年度看護学部学年ごとの単年GPA分布			看護学部GPA実績について②2020年度看護学部 学年ごとのGPA分布を公開している	*1 *2	1・2・3年生のGPA平均値が低い科目の単年分析を行い、改善策を検討する。引き続きIR室に分析を依頼し、学情ごとに各科目で成績分布を作成し検討する。成績の平準化について検討する。						

・GPA（累積GPA・単年GPA）

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	キャリアフォーラム評価委員コメント	
	○	大阪府薬科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	15	4. 進級率、休学率、退学率	15	2020年度の進級率は1・3年生が100%、2年生が97.6%であり、休学率と退学率はともに0.57%であった。	8	3) 学生在籍数に退学者数が明記されている。	16	15	留年者、退学者の要因分析データを併用し、入試方法に反映させる。			
	○	2020年度年報	25	その他(学外研修会、障がい学生開進、修成後国連、学修移動)学生支援の方針に基づき(点検計画)	28	14.6) 学修移動について：学修移動対応した。	29	・学修移動について：退学、休学各2名(2年生、4年生各1名)であった(3月末)。チャーターが窓口になり、関係諸機関とも連携を取り対応した。	31	31	・学修移動について：規模に沿って速やかに対応する。	・学修移動は教授会で動議時、報告されている。教員間でも共有されている。		
	○	HP(看護学部看護学科の各種数値データ(在籍者数等))			*3	HPに「看護学部看護学科 在籍者数」内に令和元年退学・除籍者数、退学・除籍者数と記載されている。(2020年度の記載なし)								
	×	2020年度教授会議議録：公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)				休学、退学した学生に関して教授会で共有されている								
	○	2020年度年報	32	1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握 2. データロスマポリシーに基づく卒業時看護実践力到達度調査の実施	32	1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握 2) DPに基づいた卒業時看護実践力到達度調査の実施 3) 全学生を対象に調査を実施し、報告書をとまとめた。	33	1.1) DPに基づいた卒業時看護実践能力到達度調査を全学年の学生に行なったことで学年毎の学修成果の把握ができ、次年度からの教育改善につなげることができている。	33	1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握と教育への活用				
	○	HP(看護師・保健師・助産師国家試験(国家試験対策支援))			*4	HP内に看護学部(旧 大阪医科大学) 看護師・保健師・助産師国家試験 合格者推移が記載されている	*5	HP内に国家試験対策支援として国家試験対策支援委員会の活動が記載されている。						
	○	2020年度年報	46	1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動強化のためのサポート 3. 就職活動及び内定状況の把握 4. 卒業生からの情報提供の充実をはかる 5. 業生に関するアンケート調査 6. HPの更新	46-49	2) ~9)。模試と対策講座、国試対策関連の同意書購入、チャーターとの情報共有、看護師国試対策委員会、保健師・助産師国試対策、自己採点会、学生へのアンケート	49	1.1) 第110回看護師国家試験受験生87名中86名が合格した(全国平均90.4%)。第107回保健師国家試験は受験生37名が全員合格した(全国平均94.3%)。第104回助産師国家試験は受験生7名が全員合格した(全国平均99.6%) 2) Webを活用した情報提供、学習支援は有効であった。就職支援の中で受験生への個別支援は標準の中で受験生を支援するための面形式の機会を何度が設ける。	49	1. これまで模試と対策講座については特定の業者を中心としたスケジューリングを頼んできたが、学生にとっても同じやり方では少くもWeb上でのオンライン講座等の利用など、多角的に検討していくことが求められる。 2. 不合格者への継続した具体的な支援方法を決定する。				
	○	HP(就職支援)			*6	HP内に就職情報、就職・キャリアサポート、就職に関する各種アンケート結果、就職・進路状況、主な就職先が記載されている。								
	○	2020年度年報	44	1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動強化のためのサポート 3. 就職活動及び内定状況の把握 4. 卒業生からの情報提供の充実をはかる 5. 業生に関するアンケート調査 6. HPの更新	44	1. 就職活動スケジュール等の情報や看護職目録情報、パンフレットなどをキャリアアササポートルーム内外に設置し、ポスターは掲示した。ユニバで情報発信を行った。 2. 学生の就職活動力の支援として就職ガイダンスを3回実施した。 3. 就職活動及び内定状況の把握は就業支援部にて行い、2024年2月に卒業生アンケート調査を実施し、結果を踏襲し、一部授業と報告したこと 4. 卒業生からの情報提供の充実のため、就職活動強化のためのアンケート調査を実施し、結果を踏襲し、一部授業と報告したこと 5. 業生に関するアンケート調査 6. HPの更新	44, 45	1.1) 第110回看護師国家試験受験生87名中86名が合格した(全国平均90.4%)。第107回保健師国家試験は受験生37名が全員合格した(全国平均94.3%)。第104回助産師国家試験は受験生7名が全員合格した(全国平均99.6%) 2) Webを活用した情報提供、学習支援は有効であった。就職支援の中で受験生への個別支援は標準の中で受験生を支援するための面形式の機会を何度が設ける。 卒業生87名中就職者82名(94.3%)、進学者5名(5.7%)であった。 情報提供としては模試、ユニバ、サポートルームの資料が充実したという回答は50~70%とあったので必ず要件が高い。 学生の参加率96%、満足度70%と共に高く、一定の効果が有り学生とのニーズにマッチしていると考えられる。 就業支援部が充実した。就職活動及び内定状況の把握は就業支援部にて行い、2024年2月に卒業生アンケート調査を実施し、結果を踏襲し、一部授業と報告したこと 4. 卒業生からの情報提供の充実のため、就職活動強化のためのアンケート調査を実施し、結果を踏襲し、一部授業と報告したこと 5. 業生に関するアンケート調査 6. HPの更新	45	1. ガイダンスは、内容を選ばず時間短縮を図ることも課題。ユニバや就職支援部は、ユニバでの進路を継続して提供し、進路への情報提供の迅速化をはかる。 3. 感染症対策で、次年度の採用試験が延期となった。進路への情報提供、個別相談等の支援が必要と考えられる。 4. 卒業生、施設に関するアンケート結果から社会人としての資質、国際的な視点に高い関心が高まっていることである。				

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント
・学勢調査	○	HP (2020年度 学勢調査)	25		*47	学修手帳についての調査結果が公開されている。					2022年1月頃に、看護学部の回答状況、キャンパス生活に関する調査結果、キャンパス生活に関する調査結果、卒業後の進路に関する調査結果に関する調査結果を掲載予定である。		
	○	2020年度年報	25	3. (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施	26	3. (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施 ・調査内容の見直し、実施した。	28	1.3 (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施 ・1-4年の回収率は56-99%と高率であった。	30	2.9) (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施 ・医学部Web入力であった看護学部も次年度Web入力の実施できるよう準備する。			
	○	学勢調査報告書	47-52		47-52	11. 正課外活動ポートフォリオの充実 前期、後期に同ポートフォリオへの入力を学生にアナウンスした。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大によるクラブ活動などの自粛により、学生が例年のように正課外活動でできない状況であった。そのため、ポートフォリオの内容評価が困難であるため、次年度に行うこととした。	47-52	学勢調査の結果についての詳細が、報告書に掲載されている					
・正課外活動ポートフォリオ	○	2020年度年報	25	11. 正課外活動ポートフォリオの充実	27		29	1.11) 正課外活動ポートフォリオの充実 ・合計229名の入力があった。内訳は、1年生29名(12.7%)、2年生76名(33.2%)、3年生58名(34.1%)、4年生66名(30.1%)であった。	31	2.10) 正課外活動ポートフォリオの充実 ・引き継ぎ、学生全員が入力できるようはたらきかける。			

注) 「2020年度年報」は「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科 年報 2020年度」を指す

HP資料：HP内のURL

*1 https://www.omni.ac.jp/education/f_nursing/outcomes/gpa.html

*2 https://www.omni.ac.jp/education/f_nursing/outcomes/gpa2020.html

*3 https://www.omni.ac.jp/education/f_nursing/data.html

*4 https://www.omni.ac.jp/education/f_nursing/career/career_exam.html

*5 https://www.omni.ac.jp/education/f_nursing/support.html

*6 <https://www.omni.ac.jp/campuslife/commat/support/2020.html>

*7 <https://www.omni.ac.jp/campuslife/commat/survey/2020.html>

資料3-2. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 2. 環境

中項目	小項目	総合評価	評価	解釈
①アクティブラーニングを展開する学習環境が整っている	学内に小グループで活動できる部屋がある		A…十分に整備されている	PDCAがなされている 一部実施に向けた検討がなされている
	学内に看護実践のシミュレーションができる部屋がある		B…概ね整備されている	
②ICTの設備が整っている	学内に学生数のPCの台数がある		C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
	学内に文庫検索、統計処理ができるPCがある			
③カリキュラム*を運用する体制が整っている (*各科目および科目全体を指す)	学内のいづれも場所でも無料でインターネット (Wi-Fi) に接続できる			
	遠隔授業ができる環境が整っている			
④教育・実習に関する設備が整っている	学生数に対して、常勤教員数が確保されている			
	学生数に対して、臨地実習指導者数が確保されている			
④教育・実習に関する設備が整っている	学内に図書室がある			
	学生が自己学習できる部屋がある			
④教育・実習に関する設備が整っている	学内に看護実践の基礎能力を身につける実習室がある			
	学内にキャリア形成のための情報収集ができる部屋がある			

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価コメント	
資料 ・学内ICT状況 ・キャンパスマップ、各階平面図	○	看護学部学生生活ガイド2020年度	23			キャンパスマップ (構内運動場付近) で本館 (図書館) などの場所が明示されている。Wi-Fi環境の利用についても明記されている。				A				
	○	HP	*8			同上								
	○	看護学事務課より教員向け周知資料	-			【看護学部生向け】オンライン授業開始に伴うノートパソコンの貸出について案内している。								
	×	各階平面図：公開資料なし (2016年度までは公開していたが防犯上等の理由により現在は非公開。構内の各階に掲示あり)				講義・講義室1・講義室3に教員PCを新設したことが明記されている。								
	○	教育センター (オンライン班) 資料：①学生・教員 (常勤・非常勤) に対するmoodle、Zoomに関する操作説明資料、②HP「遠隔授業のための研修会」目録、③常勤・非常勤教員向け、④「オンライン」開講前、教育センター、⑤「オンライン」班資料				情報処理室の場所が明記されている。								
	○	2020年度前期授業評価 (オンライン授業に関する学生の意見のとりまとめ) ※後納場所：教育センター				-								
	×	遠隔授業活用推進事業情報機器整備実績報告書：2020年度3月に文科省へ提出のため公開資料なし (看護学事務課が保管している)				-								
	○	2020年度年報	4-5			学生別にオンライン授業に関する意見について授業評価を行った。								
	×	毎年5月に文部科学省へ提出：公開資料なし (看護学事務課が保管している)				遠隔授業機器が整備されたことが明記されている。								
	○	常勤教員数				教員構成及び教員数、非常勤教員や実習補助員のおける実習指導者数は、報告6「実習施設等の概要」(明記されている)。								

資料	掲載資料の 公開有無	掲載資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	ナリキユニフォーム 評価委員会	
・設備 ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム エ) PC台数、統計処理が可能なPC オ) 無線LANネットワーク(Wi-Fi)接 続 カ) 図書館 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルーム	○	2020年度学務調査報告書	52- 63		4. 学内施設の利用頻度と満足度として以下の項目が明記され、公開されている。 ①図書館 ②演習室・実習室 ③階学生ホール ④階学生スペース ⑤講義室1,2,4,5 ⑥講義室3 ⑦情報処理室 ⑧インフォメーションルーム ⑨保健管理室 ⑩看護学事務棟 ⑪クラブ部室		52-63	学内施設の利用頻度と満足度についての評価が、報告書に掲載されている。			2020年1月頃にIPに掲載予定である。			
	○	看護学部学生生活ガイド2020年度	9-12		ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニングルーム エ) 無線LAN、統計処理が可能なPC オ) 無線インターネット(Wi-Fi)接 続は、看護学部棟のすべての階で利用可能であることが明記されている。 ク) 実習室 ケ) キャリアサポート及びモバイルPC利用方法について明記されている。									
	○	2020年度年報	18 22	9. 新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の導入と整備	19, 21	講義室・情報処理室にPCを完備していることが明記されている。 (3) 教育環境整備 オンライン授業システムが導入されたことが明記されている。	7							
	○	HP (大阪医科大学本部図書館) (館長紹介：看護学部(北キャンパス))	*10		カ) 図書館は、利用時間や利用方法が掲載されており、オンラインでの文献検索申込みなども整備されている。 ア) グループ演習室は、学生グループが自学自習できる場所として掲載									
	×	各キャンパス：公開資料なし(2016年度までは公開していたが砂原上等の所在は非公開、構内の各階に掲載あり)			ア) グループ演習室 イ) セルフトレーニング室 ク) 実習室 ケ) キャリアサポートルームと、情報処理室の場所が明記されている									
	○	IP「2020年度看護学教育センターからのお知らせ(新型コロナウイルス感染症対策)」 看護学部学生生活センター「新型コロナウイルスの取組み(第7版)」	*9		4月は講義終了後、5月は演習授業としていたが、6月から3年生は分散登校とし、面授授業(午前もしくは午後のみ)を開始した。演習室の使用は禁止し、図書館の使用は面授授業時間内は許可した。7月から全ての図書館は通常通り使用可能とし、図書館は5月16日(日)に閉鎖し、中心で、また5月16日(日)は、看護学教育センターの指示を仰ぐこととした。後期は、1~4年生は面授授業と遠隔授業を併用したハイブリッドで展開した。11月より、演習室は担当教員の指示がある場合に限る。3・4年生のみ18時まで使用可とし、また3年生は18時までの講義資料・5での自習を可とした。									

注) 「2020年度年報」は「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科 年報 2020年度」を指す

HP資料：IP内のURL
*8 <https://www.ompu.ac.jp/about/facilities/campusnp.html>
*9 <https://www.ompu.ac.jp/education/courses/72p360000016ama.html>
*10 https://www.ompu.ac.jp/about/facilities/central_porth.html
*11 https://www.ompu.ac.jp/about/facilities/central_porth/north.html

資料3-3. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル（学部レベル）のキャリアプログラム評価

大項目 3. 連携

中項目	小項目	総合評価
①キャリアプログラム*は計画通り実施されている（*各科目および科目全体を指す）	①A評価により学生の進捗状況を把握している	DCAがなされている
	教員によるキャリアプログラムの振り返りを行っている	
②科目の配列はDPを達成できる最善のものとなっている	科目配列は基礎科目、専門基礎科目、専門科目の順となっている	DCAがなされている
	各科目を順次でDP達成できるよう配置されている	
③教授活動の質の保証を示す根拠がある	学生による授業評価を行っている	DCAがなされていない
	IPを定期的に実施している	
	授業評価に対する改善報告書を学生に返答している	
	教員間のピアレビューを実施している	
	他地実習指導者に実習のフィードバックを行っている	

評価	解釈
A…十分に整備されている	DCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大層な見直し、改善が必要	DCAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	カリキュラム開発委員
・各科目評価	○	2020年度年報（看護学教育センター）	21	5. 授業評価・改善 2) 教員の授業改善	61-70	各領域において各科目の実施・評価等を行った	61-70	1. 2) 教員による改善報告書の作成を行うことができていない。改善報告書は年度ごとの改善点が明確に見え、かつ各領域にて自己点検を行うよう注意喚起した	21,23			
	○	2020年度年報	38-40			各領域において各科目の実施・評価等を行った						
	○	2020年度版履修のびき	30	卒業要件・取得資格								
・修得単位数	○	大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	21	6. 実習ポートフォリオの実施		1) 取込車の向上を目的として、①ユニークによる記入の統一、②リビエーション、③動画を活用し、④アツアツし、⑤いつでも視聴できるようなこと、⑥評価について教員と学生双方にアンケートを実施した。	22	学生88名のうち好者は127単元以上履修。うち1名は後期に休学した。				
	○	2020年度年報（看護学教育センター）	21					1. 2) 学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を概ね達成できている、と評価していた。	23			
・実習ポートフォリオ	○	2020年度年報（看護学教育センター）	15	4. 進級率、休学率、退学率	15	2020年度の進級率は、3年生が100%、2年生が97.6%であり、休学率と退学率はともに0.57%であった。	24	2. 3) 「看護基本技術修得チェックリスト」の記入率が低く、アンケートでは、実習ポートフォリオを活用した学習状況の把握に課題があり、「負担」との意見もあった。	24			
	○	退学率：2020年度年報	8					進級率は高水準を維持しているが、退学者は2018・2019年度と比較して減少している。	15			
・進級率、休学率、退学率	×	大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	20	2. 3) 保健師および助産師国家試験受験資格希望者の進級率は学事予定等を踏まえたスクリーンを立立て実施した	20	2. 3) 保健師および助産師国家試験受験資格希望者の進級率は学事予定等を踏まえたスクリーンを立立て実施した	20	2. 3) 進級率はスクリーンに沿って実施し、保健師33名、助産師6名を選抜した	16			
	○	2020年度年報	21	5. 授業評価・改善 2) 教員の授業改善	21	1. 2) 教員による授業（実習）改善報告書を作成し、学生に公開した。	23	1. 2) 授業改善報告書は年度ごとの改善点が一覧になっている。	23			
・保健師、助産師コース希望者数	○	大阪医科薬科大学看護学部 アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	20					進級率は高水準を維持しているが、退学者は2018・2019年度と比較して減少している。	15			
	○	2020年度年報	21					進級率は高水準を維持しているが、退学者は2018・2019年度と比較して減少している。	15			
・授業改善報告書	○	2020年度年報	21					進級率は高水準を維持しているが、退学者は2018・2019年度と比較して減少している。	15			
	○	2020年度年報	21					進級率は高水準を維持しているが、退学者は2018・2019年度と比較して減少している。	15			

資料	掲載資料の 公開有無	掲載資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント
・ピアレビュー報告書	○	大坂医科大学看護学部 アセスメント、ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証	19	4. ピアレビュー（授業見学）	19	7. 2020年度はCOVID-19による感染拡大に伴い、授業の導入により授業見学の促進は行わなかった。	19	19	19	COVID-19の状況により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
	○	2020年度年報（看護学教育センター）	22	9. 新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の導入と整備	22	4. 月は授業を行わず各科目の事前課題を課し、5月には前期授業上のオンライン授業とした。6月には前期授業中の授業内容を見直し、7月には後期授業の開始から一部延期授業を再開。7月には各学年で対面授業を実施した。後期は各学年の半分は対面、半分はZoomのハイブリッド授業とした。(8月中にZoomはマニキュアアプリ授業でも利用が多数あった。) 前期から対面授業を再開し、後期から対面授業を再開し、その結果を概して、10月の新設会に報告し、時間制変更等の対応を行った。	22	23	23	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
・授業評価	○	2020年度年報（看護学教育センター）	21	5.1) 学生の授業評価	21	5.1) 実施要領に基づいてユニースを用いた評価を行った。前期前半や実習時は評価することを失念しやっていたため、教員に対して学生への記入の促進を依頼した。2020年度はCOVID-19の影響で授業形態が大きく変わったため、自由記述欄に「オンライン」講義に対して「各学年」の意見と併記してまとめた。(「肯定的」「各学年」の意見と併記してまとめた。)	21	24	24	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
	○	HP（学生による授業評価アンケート・2020年度実習評価(3年生)・2020年度授業評価)	32	*	15	2020年度授業評価結果と実習評価結果を公開している。	32	32	32	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
	○	教員：2020年度年報	32	現行カリキュラムの運営評価の実施 常勤教員を対象とした調査	32	2. 1) 現行カリキュラムの運営評価の実施 常勤教員を対象とした調査	32	32	32	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
	○	学生：2020年度年報	32	現行カリキュラムの運営評価の実施 学生を対象とした調査	32	2. 2) 4年生を対象に、現行カリキュラムに対する評価と意見を問うアンケートを実施した。(2020年9月) 2. 3年生の総代副総代にカリキュラム改正案を説明し意見を求めた。(2021年3月)。	32	32	32	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
・教員・学生によるカリキュラム評価 ・カリキュラムマップ ・カリキュラムワッシー	○	学生：大阪医科大学薬科大学看護学部アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによるポリシーの検証 2020年度年報（看護学教育センター）	8	1) 学生調査 1) 学生カリキュラム評価アンケート (1) 授業の満足度	8	授業と比較的満足している学生が約7割で昨年度の前期後半に比べて満足度が下がっている。2年生と4年生の間に「1年目以降に授業のめまろさをあげて2年生の間に合が低い」懸念を評価者に対して共有している。3年生、4年生が「満足している」と回答しており、比較的満足しているとする学生を含めるとほとんどの学生が満足している。	8	8	8	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
	○	HP(カリキュラム(4年間のカリキュラムの概観))	*12	14年間のカリキュラムの流れが明記されている	*12	14年間のカリキュラムの流れが明記されている	*12	*12	*12	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			
	○	HP(大阪医科大学薬科大学看護学部カリキュラムワッシー 2017年度～2020年度年報) (看護学教育センターによるカリキュラムマップ) (看護学教育センターによるカリキュラム・ナンバリングコード一覧)	*13 *14	・ディプロマポリシー毎に教育課程の内容が明記されている ・各学年の履修単位の系統性、開学性、水 門を明かにしている ・各学年の履修計画と修業行動の手 助けとなるように、2020年度より科目ナンバリン グ制度を導入した	*13 *14	・ディプロマポリシー毎に教育課程の内容が明記されている ・各学年の履修単位の系統性、開学性、水 門を明かにしている ・各学年の履修計画と修業行動の手 助けとなるように、2020年度より科目ナンバリン グ制度を導入した	*13 *14	*13 *14	*13 *14	COVID-19の影響により、授業方法がCOVID-19に合わせた変更が求められ、授業見学の促進については検討を要する。			

資料	関係資料	P	D	C	A	評価	カリキュラム・評価委員	
〇	2020年度年報（看護学教育センター）	21	7. 実習に関する事項	37-38	21	11. 感染症対策に関する事項 1. 実習中の感染管理 2. 必要医療物品管理、健康管理 3. 実習調整 4. 実習評価	実習計画に変更が生じた場合に、実習目的達成とこれと並行して実習の進捗を管理して実習の進捗を把握し、必要に応じて実習の方法、実施上の留意点等）を調整し、実習受け入れ、課題設定、感染症への対応について実習委員会と協議し、進捗を図った。	
〇	2020年度年報（実習委員会）	37-38	11. 感染症対策に関する事項 1. 実習中の感染管理 2. 必要医療物品管理、健康管理 3. 実習調整 4. 実習評価	37-38	21	1. ワクチン接種の奨励を行った。2. 毎日の体温測定、手洗い、マスク着用等の徹底を奨励した。3. 実習実施に医療物品を不足なく供給する体制を整えた。4. 実習に関する事項を把握し、必要に応じて実習の方法、実施上の留意点等）を調整し、実習受け入れ、課題設定、感染症への対応について実習委員会と協議し、進捗を図った。	実習計画に変更が生じた場合に、実習目的達成とこれと並行して実習の進捗を把握し、必要に応じて実習の方法、実施上の留意点等）を調整し、実習受け入れ、課題設定、感染症への対応について実習委員会と協議し、進捗を図った。	
×	2020年度看護学実習に関する考え方 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携	37-38	11. 感染症対策に関する事項 1. 実習中の感染管理 2. 必要医療物品管理、健康管理 3. 実習調整 4. 実習評価	37-38	21	1. 実習計画に変更が生じた場合に、実習目的達成とこれと並行して実習の進捗を把握し、必要に応じて実習の方法、実施上の留意点等）を調整し、実習受け入れ、課題設定、感染症への対応について実習委員会と協議し、進捗を図った。	実習計画に変更が生じた場合に、実習目的達成とこれと並行して実習の進捗を把握し、必要に応じて実習の方法、実施上の留意点等）を調整し、実習受け入れ、課題設定、感染症への対応について実習委員会と協議し、進捗を図った。	
×	看護学実習におけるCOVID-19対策							
×	2020年度看護学実習に関する考え方 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携							
×	2020年度看護学実習に関する考え方 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携							
×	2020年度看護学実習に関する考え方 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携 密着体制場所：実習委員会→22、コロナ対策関連各部署等との連携							
〇	2020年度年報	19	1. 4) GPAの分析と平等化、1.5) 成績、進級、卒業決定と成績不良者への学生指導	23	1. 1) 前年2年度の学年GPA平均値より4.0前後に低下する傾向が見られ、全体の平均値は前年と比較して若干低下している。2) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。3) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。4) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。5) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。	23	1. 1) 前年2年度の学年GPA平均値より4.0前後に低下する傾向が見られ、全体の平均値は前年と比較して若干低下している。2) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。3) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。4) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。5) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。	将来に向けての発展的方針・課題として、GPAの分析と平等化、成績、進級、卒業決定と成績不良者への学生指導について検討する。
〇	2020年度年報	19	1. 4) GPAの分析と平等化、1.5) 成績、進級、卒業決定と成績不良者への学生指導	23	1. 1) 前年2年度の学年GPA平均値より4.0前後に低下する傾向が見られ、全体の平均値は前年と比較して若干低下している。2) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。3) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。4) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。5) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。	23	1. 1) 前年2年度の学年GPA平均値より4.0前後に低下する傾向が見られ、全体の平均値は前年と比較して若干低下している。2) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。3) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。4) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。5) 2020年度は2年度のGPA平均値は2.0前後に低下している。	将来に向けての発展的方針・課題として、GPAの分析と平等化、成績、進級、卒業決定と成績不良者への学生指導について検討する。
〇	2021年度 大阪医療薬科大学看護学部入学生センター・ポリマーによるポリマーの活用	6.7	2.1) 学年GPA分布、2.2) 2019年度と2020年度のGPA比較	6.7	6.7	2.1) 学年GPA分布、2.2) 2019年度と2020年度のGPA比較	これら2年度2年度のGPA平均値が学年全体で見たとき、2020年度は2019年度と比較して若干低下している。2) 2020年度は2019年度と比較して若干低下している。3) 2020年度は2019年度と比較して若干低下している。4) 2020年度は2019年度と比較して若干低下している。5) 2020年度は2019年度と比較して若干低下している。	1. 2. 3年度生のGPA分布は平均値が低い科目の要因分析を行い、改善策を検討する。引き続き直近に分析を徹底し、学期ごとに各科目で成績分布を把握し、進捗を確認する。成績の改善について検討する。

資料3-4、2021年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル（学修レベル）のカリキュラム評価

大項目 4. 成果

資料	中項目	小項目	総合評価	評価	解釈
①カリキュラムの目標を達成している	看護技術熟練度評価調査を実施・評価している			A…十分に実施されている	PCMAがなされている
②社会人基礎力を身につけている	卒業生就職先アンケートを実施・評価している			B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
③雇用者は卒業生の能力に満足している	ジュネオリックスキルアサストを実施・評価している			C…大幅に見直し、改善が必要	PCMAがなされていない

資料	根拠資料の公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム監修委員コメント
・科目目録	○	2020年度年報（看護学教育センター）	21	5. 授業評価・改善 ② 教員の授業改善	61-70	1, 2) 教員による改善推進書の実施を行い、かつ各領域にて自己評価を行うよう法整備した。	21, 22	1, 2) 教員による改善推進書の作成を行うことのできる指導体制を整備し、教員が主体的に改善に取り組むことのできるよう法整備した。また、改善点の推移が図りやすいようになっている。	61-70	各領域において特長に向けた効果的策・課題を挙げた。			
		2020年度年報	32	2. 現行カリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ① 常勤教員を対象とした調査 ② 学生を対象とした調査 ③ 4年生を対象とした調査 ④ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑤ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑥ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑦ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑧ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑨ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑩ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査	32, 33	1, 3) 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査の結果、若手・教員が主体的に改善に取り組むことのできるよう法整備した。また、改善点の推移が図りやすいようになっている。							
・修得単位数	○	2020年度年報	32	2. 現行カリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ① 常勤教員を対象とした調査 ② 学生を対象とした調査 ③ 4年生を対象とした調査 ④ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑤ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑥ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑦ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑧ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑨ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査 ⑩ 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査	32, 33	1, 3) 2020年度カリキュラム改正に向けたカリキュラムの運営評価の若手・教員を対象とした調査の結果、若手・教員が主体的に改善に取り組むことのできるよう法整備した。また、改善点の推移が図りやすいようになっている。							
		2020年度年報	30	卒業要件・取得資格	30	卒業要件・取得資格							
・卒業到達目標の自己評価	○	大阪医科大学看護学部「アセスメント・ポリシー」に基づいた2020年度年報	44	3. 就職活動及び内定状況の把握	44	3. 就職活動及び内定状況の把握	44	3. 就職活動及び内定状況の把握	44	2. 就職活動及び内定状況の把握			
		2020年度年報	44	3. 就職活動及び内定状況の把握	44	3. 就職活動及び内定状況の把握	44	3. 就職活動及び内定状況の把握	44	2. 就職活動及び内定状況の把握			
・卒業先評価	○	2020年度年報	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価			
		2020年度年報	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価	32	1. アセスメント・ポリシーに基づいた卒業到達目標の自己評価			

資料3-5. 2021年度 大阪医科薬科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のカリキュラム評価

大項目 5. アドミッションポリシー

中項目	小項目	総合評価
①人間の健康と生活の営みに関心のある人を受け入れている		
②他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもって関わることをできる人を受け入れている		
③看護学を学ぶうえで基礎となる基礎学力と応用力を身につけている人を受け入れている	AWO～⑥の基礎となる基礎学力と応用力が示されている。AWO～⑥にかかわる入学者選抜方法が示されている。	
④他者コミュニケーションをとり協力を発揮できる人を受け入れている	AWO～⑥状況について外部指標を用いて評価している	
⑤研究心をもち、自ら課題を見出し学ぶ意欲のある人を受け入れている		
⑥看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人を受け入れている		

評価	解釈
A…十分に実施されている	PDCAがなされている
B…概ね実施されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	根拠資料の有無	根拠資料	ページ	P	ページ	D	ページ	C	ページ	A	備考	評価	カリキュラム評価コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・求める人材像、大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等 ・入学選抜基本方針 ・入学試験の志願者数と志願倍率 	○	HP (アドミッションポリシー (入学者受入の方針))	*18	<ul style="list-style-type: none"> ・求める人材像として、以下の1～6が明記されている。 1. 人間の健康と生活の営みに関心のある人 2. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもってかわるこができる人 3. 看護学を学ぶうえで基礎となる基礎学力と応用力もっている人 4. 他者とコミュニケーションをとり協力を発揮できる人 5. 研究心をもち、自ら課題を見出し学ぶ意欲のある人 6. 看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人 ・大学入学までに身につけておくべき教科・科目等として、以下の1～5が明記されている。 1. 国語については、読解力、表現力、文章構成力 2. 数学については、「数学I」 「数学A」の知識に加え、論理的思考力 3. 理科については、「化学基礎」「生物基礎」の知識に加え、科学的思考力と探求力 4. 英語については、読解力、表現力に加えて、国際社会の人々と自らコミュニケーションを図ろうとする力 5. 地理歴史・公民については、血井安門書、地理、製菓社、文化、倫理、読書の基礎知識に加えて、国際人としての良識ある行動がとれる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜基本方針については以下のよう明記されている。 看護学部では、人材育成の目的を達成するため、学士力(①知識・理解；文化、社会、自然等、②汎用的技能；コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等、③態度・志向性；自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任等、総合的な学習経験と創発的思考力)を身につけた看護職者を育成し、4年間で看護師国家試験、さらに保健師と助産師を合格した学生に各々の国家試験に合格するように教育する。入学者の選抜方法として、「建学の精神」入学試験(専願制)、学校推薦型選抜(併願制)、一般選抜(科目日入試、3科目入試)、大学入学共通テスト利用選抜を実施している。 								
	○	2020年度履修のてびき	3	同上	3	同上	同上						
	○	HP(看護学部入試情報 令和3(2021)年度 看護学部入試概観結果について)	*19			<ul style="list-style-type: none"> 人試ごとに志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、競争率、受験者平均点、合格者最低点、繰り上げ合格候補者最低点が明記されている。 							
	○	大阪医科薬科大学看護学部アセスメント・ポリシーに基づいた2020年度データによる3ポリシーの検証	3			<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でオープンキャンパスが十分に実施できなかったが、志願者が減少しなかったことは評価できる。また、建学の精神入試は2回目になるが、応募者が増加し、社会人も入学しており、多様な人材確保につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でオープンキャンパスが十分に実施できなかったが、志願者が減少しなかったことは評価できる。また、建学の精神入試は2回目になるが、応募者が増加し、社会人も入学しており、多様な人材確保につながっている。 	3	3	引き続き優秀な人材を確保していく必要がある。建学の精神入試を実施し、才能を伸ばした多様な学生を確保する。※社会人も応募可能			

資料	根拠資料の 公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	カリキュラム評価委員 コメント	
・入学時調査（新入生の出身校評 定）	×	出願書類（成績証明書）												
・入試制度別の成績調査	○	大阪府看護科大学看護学部アセスメ ント・ポリシーに基づいた2020年度 データによる3ポリシーの検証	4	3.入試制度評価 1) 入試制度別 成績	4	入学試験別の入学後の成績（1年 次GPA）の分布図が示されてい る。	4	入学試験別に見るとGPA平均値の 差が0.27と大きい。1年次のGPA平 均値は、一般入試（2科目）と種 別併願で入学した学生が最も高 く、建学の精神入試の学生が最も 低い。入学年度によって異なるた め、統一的に評価していく必要が ある。	4	一般入試（2科目）の学生の偏 差幅が上昇し、GPAも上昇して いるが、今後の動向の解析を 行う。				
・ジェネリックスキルテスト	○	2020年度年報	32	1.1) ジェネリックスキルテスト の真価	32	1.1) 「対象者（時期）は2020年 度生（1年次前期）および2018年 度生（3年次末）であること。学 生には批判的・協働的・創造的思 考力の個人結果レポートを活用し 在学中と就活に活用を促し、（アン ケート追加）を指導カレッジ、（アン ケート追加）を指導の参考とした こと、3月の学科会議で3年次生の 結果の説明会をもち各教員でそれ を共有し、教養改善につなげる場 としたこと」が明記されている。	33	1.1) 今年度から1年生を対象に ジェネリックスキルテストを実施 したため、学生の傾向を早期から 把握できた。						

注) 「2020年度年報」は「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科 年報 2020年度」を指す

HP資料：HP内のURL
*18 https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/policy/admission_policy.html
*19 <https://www.ompu.ac.jp/admission/undergraduate/q1931k000008951-at1/q1931k00000091e6.pdf>

資料3-6. 2021年度 大阪医科大学看護学部 課程レベル (学部レベル) のキャリア評価

大項目 6. 改善

中項目	小項目	総合評価
①学生、教職員が目標達成のための課題や問題点を加えている	学生と教職員が課題や問題点を共有する場がある	
②評価結果、前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、連続性のある次のPlanがたてられている	共有した課題や問題点の改善策を可視化している	

評価	備考	解釈
A…十分に実施されている		PKCAがなされている
B…概ね実施されている		一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な直し、改善が必要		PKCAがなされていない

資料	根拠資料の有無 公開有無	根拠資料	頁	P	頁	D	頁	C	頁	A	備考	評価	キャリアコメント
・学科学務課事務録	×	2020年度第11回看護学部学科会議 議事要旨；公開資料なし	-	毎月第3水曜日に行われる全教員が参加する定例会議。	-	必要時、全教員で協議すべき事項を協議事項とし、また、各センター、各委員会からの定期的な報告等を報告事項として実施	-	covid-19による緊急事態宣言のため、第1～4回までは、メール会議となった。5回以降、対面で開催されている。	-	2020年度も継続して行う（但し開催方法は、covid-19の対策の観点からzoomによるweb開催の場合もあり得る）			
・3センター（看護学実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	○	2020年度年報 （ただし2020年度各センター議事録；公開資料なし、学内教職員のみ閲覧可能）	14～34	各センターの目的を明確にし、目標達成のための今年度の計画と活動概要、評価と将来に向けた施策の方策と課題を文書で共有	-	3センターとも年報においてPKCAに基づいて記載	-	3センターとも将来に向けた発案・課題を明記	-	2021年度看護学部活動計画に反映させる			
・卒業生就職先アンケート調査	○	2020年度年報 甲（2020年度大阪医科大学看護学部の卒業生に関するアンケート結果要約）（2020年度大阪医科大学看護学部卒業生へのアンケート調査結果要約）	44	5. 卒業生に関するアンケート調査	44	5. 卒業生・施設アンケートは、合同実施の教育センターと検討し毎年、継続実施することとした。	45	卒業生に関するアンケート調査結果より、施設側、学生とも生命の尊厳や向学心は優れている点が高い	45	4. 卒業生、施設に関するアンケート結果から社会人としての資質、国際的な視座に關して高めることが課題である。			
・学生からの要望に対する若手学生・教員懇談会 意見箱の運用	○	2020年度年報	25	6.（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用、懇談会の実施	27	（学生からの要望に対する対応）意見箱の運用、懇談会の実施、意見箱：月1回の会報とした今年度の当初は、4件であった。学生懇談会：本年度は感染症予防の観点から集合での懇談会は控え、各学年の総代、副総代を通じて意見を収集した。	29	ユニバ、メールのやり取りで4件の要望（重複あり）が提出された。内19件は講義や成績評価等に関するものあり、教育センターからの報告も集約して、2月にユニバと啓示により学生に配布した。	31	学生の自治活動推進のため、学生自治活動への参加、学外が能動的に主体的に参加する機会を創出するなどの運営ができてきたことを受けて、2月に実施する。			

注）「2020年度年報」は「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科 年報 2020年度」を指す

HP資料：HP内のURL
*16 <https://www.ompu.ac.jp/campuslife/nursing/v9sak00000000489-atu/f2p-jgc0000001p4v.pdf>
*17 <https://www.ompu.ac.jp/campuslife/nursing/v9sak00000000489-atu/o12vmg00000001x26.pdf>

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCAがなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

大項目 1. ディプロマポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)
①	A	A	A	A	A	A
②	A	B	B	B	B	A
③	A	A	A	A	A	A
④	A	B	A	A	A	A
⑤	A	A	A	A	A	A

・学勢調査の結果から全体で70%未満であり、2019年度より低下しているため改善が必要

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)	コメント
・卒業演習評価	A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策に関して、適切に対応・運営していると考えます。 ・Zoomでのスライドショー共有が円滑に行えず、卒業論文発表会が30分ほど押した。そのため、マニュアルや事務員が待機するなど対応を考えた方が良いのでは？ ・ICT環境に適切に対応された卒業演習の領域決定と発表会の運営をされており、今後の授業評価が期待されます。
・GPA（累積GPA・単年GPA）	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・チューター以外の先生と面談できる機会が欲しい。 ・対面・オンラインでの違いや改善理由が明らかであると評価しやすい ・科目間の評価の標準化が検討されており、学修指導にも適切に活用されています。今後、取り組みの評価を踏まえ、学修指導や成績の標準化の促進が期待されます。
・休学率、退学率	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・参考までの質問です。3ポリシーの検証はHPに公開されているのでしょうか。 ・学籍移動について関係機関と連携を取り対応されており、教員間で共有されていると考えます。
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時看護実践能力到達度調査により学修成果を把握されており、今後の教育改善への活用が期待されます。
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい成績です。多角的に支援している成果だと思います。是非とも継続してください。 ・高い合格率を維持されており、国試対策に尽力されているのがわかります。

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・進学率・就職率	A	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・A項目の4について、社会人としての資質、国際的な視点に関して高めることが課題であると記載があるが、Aとして何を行うかがわかりづらい ・病院以外の就職サポートが不十分 ・新型コロナ感染拡大の影響がある状況で、全員が就職か進学をされており、就職ガイダンスなどの効果的な学生支援が行われていると思います
・学勢調査	A	A	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度の学勢調査は、HPには準備中となっており、調査内容を見直し、実施されていることは把握できますが、今後の公開が期待されます。
・正課外活動ポートフォリオ	A	A	A	C	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・正課外ポートフォリオの有用性について十分に理解していない学生が未だたくさんいるのではないかと感じた。 ・参考までの質問です。正課外活動・学生生活に関係するアンケート調査結果を評価する項目はありますかでしょうか。例：「第2部：看護学部」の冊子を評価する項目。 ・時間を要するにもかかわらず回答によるメリットが学生に伝わっていないため、回答率が低いと考えられる ・学生への周知が実施されていますが、新型コロナ感染拡大の状況で学生の入力の割合に影響したことがうかがえます。

大項目 2. 環境

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	B	A	A	B	A	B	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	B	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	A	A	A	B	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・学内ICT状況 (キャンパスマップ、各階平面図)	A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各自パソコン持参の授業があり、準備できない学生グループがスマートフォンでzoomに参加しており、情報室のPCの使用を許して欲しかった。 ・ノートパソコンの貸出やWi-Fi環境の整備に取り組まれています。
・常勤教員数	A	A	A	A	B	A	・常勤教員定数より2名不足しています。
・文部科学省調査「指定 (認定) 学校概況」等報告書	A	A	A	A	A	A	・実習施設の実習指導者数が報告されている。
・設備	A	A	A	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学生がアクティブラーニングに習熟しているかどうかを確認していますでしょうか。 ・看護学部のハードウェアは素晴らしいと思います。参考までの質問です。他学の状況と比較して、本学のハードウェアを振り返ることはあるのでしょうか。例えば、シミュレーション機材など。 ・新型コロナウイルスに伴うオンライン授業の導入と整備：非常に苦労されていると思います。現在の状況を教えてくださいませんか。 ・Zoomに接続しても出席していない学生がみられた。顔出しや質疑応答などが必要であったと考える。また、教員と学生双方に生じた機器不良に対して各教員が対応できず授業の理解度等に不平等が生じていたと予測される。(オンライン授業経験1年以上前) ・学生の自学自習室利用を把握されていますでしょうか。 ・医学部では対応済みにもかかわらず、感染症により自習可能なスペースが確保されていない。 ・四年生の昼食場所がアナウンスされず大変困った。ゼミ担当教員に毎回問い合わせするのも回答が遅かったり、申し訳なさがある。 ・学生の学習のために利用可能な設備が概ね整っており、学生生活ガイドに施設の利用について、利用時間、使用時の留意事項等が詳細に記載されていると思います。また、オンライン授業のための環境整備に取り組み、学年別にも対応をされています。評価について、「まったく利用しない」学生の割合が50%以上は⑧セルフトレーニングルーム⑨地下食堂、「満足している」「やや満足している」と回答した割合が50%未満は②演習室・自習室③1階学生ホール④3階オープンスペース⑤セルフトレーニングルーム⑥地下食堂⑦クラブ部室であり、意見、要望から見直しを要する学内施設があるように思います。

大項目 3. 過程

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	評価	解釈
①	B	A	A	A	A	B	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	B	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・各科目評価	A	B	A	A	A	A	・挙げた課題に対し何を行うのかわかりにくい ・各領域による評価が将来に向けた発展方策・課題を含めて丁寧に行われております。
・修得単位数	A	A	A	A	A	C	・卒業要件と取得資格が明記されています。
・実習ポートフォリオ	A	A	A	A	A	A	・実習ポートフォリオは、最終学年まで持ち越しされるのでしょうか。 ・看護学教育センターと実習委員会が連携して実習ポートフォリオを実施されています。
・進級率、休学率、退学率	A	A	A	A	A	A	・休学・退学者については、学部を超えての問題です。できれば、大学で情報共有する機会があれば良いです。 ・教授会で学籍移動の状況が報告され、教員間で共有されていると考えます。
・保健師、助産師コース希望者数	A	A	A	A	A	A	・スケジュールに沿って、保健師、助産師コースの選抜がされています。
・授業改善報告書	A	A	A	A	A	A	・授業改善報告書を作成されており、改善点の推移が可視化しやすいと考えます。
・ピアレビュー報告書	A	A	A	A	B	B	・対面ではない授業のピアレビューの検討を要すると思います。
・授業評価	A	A	A	A	A	A	・PDCAの流れがよく理解できる ・看護学部にて講義を担当していますが、これに関しては適切に対応されていると考えます。 ・新型コロナウイルスに伴うオンライン授業の導入と整備を行い、調査およびその結果を報告し、改善に向けて取り組まれています。ユニバを用いた授業評価により高い回収率を維持できています。

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・教員・学生によるカリキュラム評価 ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリー 	A	A	A	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAの流れがよく理解できる ・授業形態の変更・遠隔授業・臨床実習の制限などが関係しているのでしょうか。教員および学生の感想を教えてくださいませんか。 ・これが教員間のピアレビューと考えて良いですか。いた2020年度データによるポリシーの検証> ・教員と学生のカリキュラム評価が実施され、改正案の作成に活用されています。また、HPにディプロマポリシーと整合したカリキュラムツリーが示されています。授業の満足度の低下があるが、授業形態の変更の影響もあると考えられる。授業に満足しなかった理由で「なし」が20%を超えているため、明確な理由が把握しにくいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・看護学実習におけるCOVID-19対策 	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、可能な範囲で実習をさせていただき貴重な経験ができて皆感謝していました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による授業形態変更について、学生への周知は迅速にされていますでしょうか。 ・実例として、このような事例はありましたでしょうか。学生参加の評価委員会ですので、可能な範囲の回答でよいです。 ・学生受け持ち患者が濃厚接触者となった場合の学生が取るべき行動及び不必要な行動を明らかにして欲しい。実際に、同状況が発生し保健所に連絡を取った事を大学側に伝えたところ「勝手なことはするな」と注意され、不快であった。 ・厳しい状況下、実習の継続への取り組みがされています。
<ul style="list-style-type: none"> ・GPA（全体推移・単年GPA・個別GPA） 	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・また、情報が更新されれば、教えていただけますでしょうか。 ・GPAが分析され、指導への活用、科目間の評価の平準化が推進されています。今後、取り組みの評価を踏まえ、学修指導や成績の平準化の促進が期待されます。
<ul style="list-style-type: none"> ・FD実施状況 	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの出席状況は把握されていますか。参加回数が少ない教員に対しては、参加を促す介入はされていますか。所属する委員会に関係なく、教員間の絶え間ない意識共有・コミュニケーションが重要と考えます。これについてはいかがでしょうか。 ・対応困難な学生に対する実習委員会内FDの実施：非常に重要な項目だと思います。これに関する教員間の情報共有はいかがでしょうか。できればその共有方法を教えていただけますでしょうか。 ・遠隔授業、教育の質向上に向けたFDが実施されており、活発であると考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・実習連絡協議会の報告資料 	A	A	B	A	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実習連絡協議会の開催が中止となり、運営方法の検討が期待されます。

大項目 4. 成果

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)	コメント
・各科目評価	A	A	A	A	A	A	・各領域による評価が行われており、授業改善報告書を作成されているため、改善点が可視化しやすいと考えます。
・修得単位数	A	A	A	A	A	A	・現行のカリキュラムの運用評価がされており、卒業要件と取得資格が明記されています。また、指定規則改正に伴う新カリキュラムの検討を進められています。
・卒業先評価	A	A	A	A	A	A	・全員が就職か進学をされており、就職ガイダンスなどの効果的な学生支援が行われていると思います。
・卒業時到達目標の自己評価	A	A	A	A	A	A	・卒業時看護実践能力到達度調査により学修成果を把握されており、今後の教育改善への活用が期待されます。
・ジェネリックスキルテスト	A	A	A	A	A	B	・本テストを有効利用ができた事例があれば教えていただけますでしょうか。 ・ジェネリックスキルテストが実施されており、効果的な学生へのフィードバックをされていると考えます。
・卒業生就職先アンケート調査	A	B	B	A	A	A	・A項目の課題について、どういった計画の方向性があるのかわからない ・回収率が30%台ですので、これを上昇させる必要があります。 ・毎年の卒業生アンケートにより、評価結果や課題を明確にされている。
・看護技術経験表評価調査	A	A	A	A	B	A	・ポートフォリオは重要だと思います。これは最終学年までもちこせませうでしょうか。低学年では同様のポートフォリオを実施されていますでしょうか。 ・ポートフォリオは双方向性になっていますでしょうか。 ・看護基本技術経験チェックリストの活用が期待されます。
・資格取得：国試合格率	A	A	A	A	A	A	・素晴らしい成績です。是非、この成績を維持してください。 ・高い合格率を維持されており、国試対策に力を入れておられるのがわかります。

大項目 5. アドミッションポリシー

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)	評価	解釈
①	A	A	A	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	A	A	A	A	A	B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
③	A	A	A	A	A	A	C…大幅な見直し、改善が必要	PDCAがなされていない
④	A	A	A	A	A	A		
⑤	A	A	A	A	A	A		
⑥	A	B	A	A	A	A		

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F～J)	コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・求める人材像、大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等 ・入学選抜基本方針 ・入学試験の志願者数と志願倍率 	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・求める人材について具体的に記載されているが、C項目の設定が課題ではないか ・適切に入学試験が施行されていると考えます。 ・オープンキャンパスは入学前の重要な大学との接触する機会ですので、是非とも続けてください ・HPや履修の手引きにアドミッションポリシーや試験結果を明示されており、入学者受入の方針に沿った人材確保に努められていると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・入学時調査（新入生の出身校評定） 	A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時調査を実施されています。
<ul style="list-style-type: none"> ・入試制度別の成績調査 	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校での未修科目に関する講義（補講）はされているのでしょうか。また、その習熟度は十分でしょうか。入試種目別について、留年・退学などは関係あるでしょうか。卒業時での成績はどうでしょうか。 ・入学試験別のGPAを把握し、評価されています。
<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックスキルテスト 	A	A	A	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、テスト結果と有効利用できた事例があれば、教えていただけますでしょうか。 ・ジェネリックスキルテストが実施されており、早期に学生の傾向を把握されています。

大項目 6. 改善

中項目	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	評価	解釈
①	A	A	B	A	A	A	A…十分に整備されている	PDCAがなされている
②	A	B	B	A	A	A	B…概ね整備されている C…大幅な見直し、改善が必要	一部実施に向けた検討がなされている PDCAがなされていない

資料	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E	学内委員 (委員F~J)	コメント
・学科会議議事録	A	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の何が計画Pなのか不明 ・12回開催されることが評価Cなのか ・Pが不明確のため、DCAが不明確 ・学科会議が定期的に関行されています。
・3センター（看護実践研究センター、看護学教育センター、学生生活支援センター）活動報告	A	B	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細内容が不明 ・3センターの活動が発展的で活発なことが年報よりうかがえます。
・卒業生就職先アンケート調査	A	A	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・同アンケートから多職種との連携・協働についての能力の習得不足が次に課題とあり、今後の取り組みが期待される ・医学部では卒業生の動向をフォローしています。看護学部ではどのような方策をされていますか。参考までの質問ですが、同門会との連携はありますか？ ・卒業生アンケートが毎年、継続的に実施され、評価結果から課題を明確にされています。
・学生からの要望に対する対応 学生・教員懇談会 意見箱の運用	A	A	B	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、各学年学生と懇談する機会を設けていますか。 ・要望の聴取が遅い事がある。謝恩会会場からの問い合わせ後に実施の要望を聴取していた。対応が遅くとても残念に感じた。 ・懇親会が実施できない状況でしたので、今後に向けた取組の検討が必要であると思います。

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価
2021年度 報告書

発行日 2022年3月30日

発行 大阪医科薬科大学看護学部

〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町7-6

著・編集 看護学部カリキュラム評価委員会

吉田久美子 瓜崎貴雄 近澤幸

川端由夏 北川祐美